

おおとり会だより

一歩踏み出した「おおとり会」
さらに意識改革を

会長 長屋 梅子

(国文学科・短大七回生)



霜月は茶家でいえば
炬開きの嬉しい月です。
露地は清々しい青竹に
変わり、新しい畳の香
りが席中に満ち、客を
迎える準備も楽しいも
のです。しかし、十一月も末頃になりますと、

「見渡せば花も紅葉もなかりけりうらの苦屋
の秋の夕ぐれ」と詠われるように、全てが色
のない世界に封じ込められていくような思い
がして、複雑極まりないのも、この晩秋では
ないでしょうか。そんな想いをしながら、今
おおとり会の歩みを振り返っています。

会員の皆さん、その後いかがお過ごしです
か。御自分のために、また人のために御活躍
されていらっしゃるのですが、私も会の運営
に携わっている者にとっては、一番の励みに
なります。

私の会長一期(二年)が終わろうとしてい
ます。この後半の一年は、おおとり会として
も大きな動きのあった年だったのではないで
しょうか。二十八年度の総会が終わるとすぐ
全体幹事会でいただいたアンケートの分析に
取り組み、アンケートに答えるべく二十八
年度の事業をどうするか。秋の「剣祭」への参
加云々・二十九年度の総会の在り方等、役員
会・理事会・当番幹事会を重ねる中で、慎重

に且つ、大胆に決定させていただきました。
その結果の一つに、「剣祭」が挙げられます。
「おしゃれ工房」と称して、「絵手紙作り・
茶たぐの絵付け・折り紙」等の「小物作り体
験コーナー」を提供し、悪天候にもかかわらず
それなりに盛会だったことを、スタッフ一
同感じ取ることができました。「不参加」と
いう声もある中、大学との唯一の接点である
剣祭への参加は止めるわけにはいかないとい
う強い想いの表れが、文珠の知恵を産み出し
ました。「おふくろの味」から「おしゃれ工
房」への切り替えは見事でした。

さらに熊本地震への義援金や東日本災害復
興支援への協力(菓子販売)等にも、時をお
かず即、対応する役員や理事・幹事の大きく
豊かな心が嬉しかったです。

これからは、自助・互助・共助・公助の時
代、時の変化に応じて最大限活かして合っ
ていく社会です。これまで「おおとり会」とい
う傘の中で小ぢんまり過ごしてきた私たちで
したが、少しばかりはみ出して外を見よう、冒
険しよう、いろいろなことに関わっていき
そうして助け合わなければ、ということに
気付いたので。心の広がりを見る思いです。
いよいよ意識改革が始まった「おおとり会」、
今後も改革の精神で進められることを願っ
て止みません。

急速に高齢化している会ですが、意識改革
は年齢ではありません。もう〇〇歳でいまさ
ら・・・ではなく、まだまだ出来るというプ
ラス思考で、さらに時の変化や学生はじめ人
人のニーズを敏感に捉え、おおとり会ならで
はの活動を探索していこうではありませんか。
末筆になりましたが、本年も学長さん・室
長さんはじめ、諸先生方の御指導に感謝し、
合わせて会員のご健康・御活躍をお祈り致し
てご挨拶に替えさせていただきます。

はばたき寄金

平成二十八年度『おおとり会賞』は、
左記の団体が選出され、平成二十八年四
月二十日に行われた開学記念行事におい
て、鬼頭宏学長から表彰されました。

ジャグリングクラブ「五臓六腑」

剣祭等の学内行事に限らず、老人ホ
ムや幼稚園、地域のイベントなど様々な
場所で開催しています。静薬100周年
の記念舞台にも招待して頂きました。技
術力・演技力を競う競技としての公式大
会にも参加し、最近では好成績を修める
部員が増えてきました。創立当初は、部
員も十人に満たないサークルでしたが、
地域や学校関係者の皆様、私達のパフォ
ーマンスを見て
下さる観客の皆
様のお陰で、こ
こ迄成長するこ
とができました。



これからも、皆様を笑顔にするような
パフォーマンスを目指して、練習に励み
ます。

代表 松本 聖也

輝く女性シリーズ III



わたし、このままで
いいかしら

志和 明美

英文学科（大学十一回生）

クラスの幹事さんから「おおとり会、だよ」とお話をいただき、嬉しく思いました。

私は小学四年生からバレエを始めました。音楽にあわせて体を動かすのが楽しくて楽しくて、六年生の頃には自分のレッスン時間より前の幼児クラスから稽古場へ行き、大人のクラスまでずっと見学です。自分の気に入った曲に振りをつけて踊りを作るのは楽しいと思ったのもこの頃からです。

先生のお手伝いをさせてもらうようになり、高校生になってからは東京の先生の所にも通わせてもらい、公演のある時は毎週土・日曜日に泊まりがけで練習に行きました。学校の試験の前日にレッスンがあっても休んだことはありません。担任の先生に「余裕だね。」と笑われましたが、レッスンの日に家にいると落ち着いて勉強ができないのです。

そんな私も自分に限界を感じて、結婚を機に家庭にとっかかり納まっけてしまいました。三男が三歳くらいになった頃、「たいへん！私の人生、このまま終わっていいかしら」と居ても立ってもいられ

なくなり、「踊りたい」という気持ちが強くなっていききました。そんな折り、昔一緒の稽古場にいた友人と再会し、二人で練習を始めました。家族の協力もあり十年のブランクでしたが、復帰して三ヶ月後、自作の踊りで舞台上に立つことができました。

子供達を教えたかったので、ささやかながら近所の公民館を借りて、ふくらはぎがパンパンになるくらい歩いて、生徒募集のチラシを配りました。初めは生徒二人三人からの出発です。年月が経ち次第に生徒も増えて生徒の為に踊りを作り、二年に一度グランシップで創作バレエコンサートを開くようになりました。小品や三十分くらいのダンスドラマも作っています。子供の頃に物語を読むのが好きだったのが役に立っているのでしょうか。自分で物語を考え、音楽もいろいろなジャンルから必死に探して下準備をします。物語の世界に入って踊りを創作し、子供達がワクワクするような、ちよつとスリルを感じるような演出をします。子供達は自分以外の何者かになるので楽しみにしてくれます。私もまだ現役で、ダンスドラマではガマガエル婆さんやちよつと間抜けな魔女を踊ります。次は愉快な悪役を踊ります。子供達と踊るのはとても楽しくて、皆で一つのことを成し遂げる喜びを感じます。

どんな道でも奥は深いと思いますが、私も未だに身体の使い方一つとっても感覚的に発見することがあって驚きます。まだまだたくさんのが分かるには時間がかかるでしょう。自分で納得のいく踊りが踊れるようになるのも、まだ先のことのように思われます。創作する作品の完成度も、たくさん作っていく中で少しずつ前に進んでいったらいいなと思います。

周りの人達に支えられつつ、神様から「もう終わりですよ。」と言われるまで、歩み続けていきたいと思っています。



「アラロキの

ハロー、グッバイ」

杉山 ゆり子

英文学科（大学一回生）

ハロー！

棒に当たっても宝くじなどには当たったためしがない私が、今年六月のおおとり会総会で鬼頭学長が二冊寄贈された著書「人口学講義」の一冊を戴く光栄に預かりました。おおとり会が開かれた六月が誕生月の人と、その日一番遠方から参加した人という会長の提案で私は前者に該当した訳です。その事がきっかけで、この欄に拙文を投稿する機会を与えられ恥ずかしながらペンを執った次第です。

女子大第一回卒業生として早や半世紀たちますが、草薙の地に降り立つと女子大までの茶畑の道、故小田先生の指導のもと英語劇の練習に泣き笑いたした日々が蘇り、心がワクワクするのを感じます。

卒業後大学を通して入社したトヨタ本社に二年間勤務後、縁あって静岡は電車で一時間位の裾野市に住むことになりました。結婚一年後のある日、地方紙に出た「英語講師募集」の広告が私のその後の人生を決めるものとなりました。その広告主は農協で、カセットデッキを販売したアフタケアーとして、売るだけでなく中学生の英語の勉強を手助けする目的で講師を募集したという訳で、六人が採用され、各支店の一室を教室にして教えることになりました。入講式には生徒に紅白饅頭が配られるという、まさにコテコテの農協スタイルでした。全部で約八十人位の生徒がいたと記憶しています。当時はまだ大手塾がなく生徒数がどんどん増え一クラス二十人から二十四人という時もあり、学校の縮小版になっていきました。しかし地域に根差す農協には、近所の仲良し生徒を能力別に分けてはいけないという不文律があり、ストレスがたまる日々でし

た。そんな時小学生コース開設を提案し、五年生から始めました。小学生の英語教室が少ない時代で、月謝も安いこともあり、一時は申し込み者が列を作ったという話もありました。小学生コースを始めたことでフォニックスを勉強したり、楽しく学んでもらうためのゲームや方法を考えたりする事で、学力の格差が激しい中学生を教えるストレスが少し緩和された気がしました。最近何かと話題になってるハロウィンパーティも地元で最初にやり出したのは私達だったと思います。テストの結果に一喜一憂する中学の英語の前に、色々な行事を通じて外国の文化に触れながら英語を学習するのはとてもいい経験だと思います。もちろん中学生もあの手の手で授業に惹きつけなければならぬのですが、砂が水を吸い込むように吸収する小学生に出会ったり、アテンションブリーズが「アテンションあげなさい」という意味だと思った」と飛行機に乗った時の事を話すのを聞いたりすると本当に楽しくなります。

年金を始め身分の保証など何もなく、また夕食時の家族団欒の時に家にいないという仕事をここまで長く続けて来たのは、ひとえに家族の深い理解と何よりも自分が英語が好きだったからかもしれないですね。今のところ定年制がないのでもう少しやらせて戴き、彼らから活力をもらおうと思っっているアラコキの私です。



グッドバイ!



ささやかなれど

素晴らしきかな我が人生

尾古満子

被服学科(大学二回生)
鳥取県在住

女子大を卒業して早や四十数年。茶畑の中を歩いて富士山の雄姿を見ながら登校したのが、昨日の事のようです。地方から初めて静岡の地を踏み、西も東も分らないまま女子寮に入寮しました。素晴らしき先輩、同期生に恵まれてとても楽しい寮生活を体験しました。中森先生の心理学クラブに入りロールシャッハテストなど新鮮でした。又、仲良しの友と再三上野の美術館めぐりをしました。お金はなくても東京で異文化を吸収でき、これも静岡という地の利のおかげだったでしょう。卒業後は、名古屋で二年間勤務し、田舎に帰って代用教員をしている間に、今の夫とお見合いをし結婚しました。未知の畜産の世界に飛びこんで苦労しました。五年間は家事・育児に専念していましたが、義父が病気で亡くなってからが牧場の牧場デビューでした。知らないという事はすごい事です。何をどうしているかわからない、ホウキを持ってポツと立っている状態でした。自分の気持ちか動き、疑問点や興味が出てくるまでしばらく時間がかかりました。動き出すと色々な物が目に入るようになり、肥育婦人部の活動、県や農協の学習活動等に積極的に参加しました。やり出すとどんどんおもしろくなって、特に熱心に取り組んだのが複式簿記でした。肥育婦人部という農協の組織ですが、みんな苦しい経営状況にあつたので、必死で講師先生にくらいつき、夫に家族にどんな疑問をぶつけ、まさに男女共同参画の時代でした。人間おもしろくなる、本当に能力を発揮するものです。昭和五十八年に簿記を始めて、平成元年には畜産部門の経営で天皇杯をいただき、夫と共に全国農林水産祭で表彰をしていただきました。皇居の宮殿で天皇・皇后両陛下にお目

にかかれてお話できたのは、一生の宝だと思っています。その後は、町の人材派遣のヨーロッパ研修に始まり、様々な海外研修、全国女性農業経営者会議、全国畜産縦断いきいきネットワークの活動など、多くの人達と友達になり、また勉強させていただきました。平成四年に牧場産の和牛肉の産直を始め、六年に完全予約制のレストランを始めました。家族経営の小さな牧場ですが多くの人達に来ていただき、手作りの山のごちそうをおいしいと言っていただけ、手作りの山のごちそうをおいしいと言っていただけ、何よりの私のエネルギーになっていきます。これからも多くの人達とつながり、この緑豊かな自然を守って、牛が大好きな夫と共にゆつたりと暮らしていきたいなと思っております。



おとり合版 おしゃれ工房

平成28年10月29日、剣祭で「おしゃれ工房」というタイトルの無料体験コーナーを開きました。また、東北大震災復興支援協力の一助になればと、岩手県大槌町のモーモーハウスの焼き菓子販売しました。体験コーナーでは、コマなどの折り紙・塗り絵、茶托の絵付けの三つを子供連れのご家族などに楽しんでいただきました。

平成29年度の参加やその形態については、皆様のご意見を伺いながら検討していきます。



平成28年度総会報告



平成二十八年六月十二日(日)、静岡県立大学におおとり会総会が、県立大学から鬼頭学長、小針学生部長、清水学生室長、恩師の大津山先生、高瀬先生、金井先生のご臨席、同窓生六十一名の参加で開催されました。

開会に先立ち、四月に起きた熊本・大分大地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし参加者全員で黙祷を捧げました。第一部総会では、来賓の大津山先生にご祝辞を頂いた後、二十七年事業、決算、会計監査の報告、二十八年事業計画案、予算案が承認されました。また、今年度から会報と総会案内の送付を外部委託したことについて事務局が説明を行いました。

その後、二十八年度「おおとり会賞」を受賞した「静岡県立大学ジャグリングサークル五臓六腑」の皆さんに、若さ溢れる楽しいパフォーマンスを披露して頂きました。

第二部は鬼頭学長による講演会でした。最初に、おおとり会の活動を多めに認めて下さり、県大とその母体になった各大学の同窓会連合体を作っていく方向で考えたいという言葉を頂き、母校をなかくして心細い私達はとて心強く思いました。講演は「少子化とジェンダー問題く女性の力に期待する」というお話でした。今日には少子化、労働力不足、女性生き難さ等の問題があります。私達のおとり会員の年代としては、若い世代が

子供を産み、育て易いように手助けしていかねばならないと心に誓いました。第三部は、はばたき棟食堂にて懇親会が行われました。中田先生にもご参加頂きました。千葉県や鳥取県などの遠方から参加された方もあり、旧友や恩師との再会と語らいに喜び合いました。今回は一回、六回、十一回卒業生が当番幹事を務めさせて頂きました。脈々と続くおおとり会の和と力に明日へのエネルギーを頂いた一日でした。



懇親会風景



ジャグリングパフォーマンス



杉山ゆり子さん



尾古満子さん

懇親会では、講演をして下さった鬼頭学長のご著書「愛と希望の『人口学講義』」が、総会開催月の六月生まれの、英文学科大学一回生の杉山ゆり子さんと、今回一番遠方の鳥取から参加された被服学科大学二回生の尾古満子さんにプレゼントされました。そのお二人が「おおとり会だより」に、近況を寄せて下さいました。

(英文学科大学十一回飯田、同十三回瀧)

平成27年度 決算報告書

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
総収入 10,137,327円 総支出 1,356,932円 残高 8,780,395円(繰越金)

収入の部					支出の部				
費目	予算額	決算額	増減	備考	費目	予算額	決算額	増減	備考
預金利息	10,000	28,103	18,103	定期貯貯・通常貯貯	事業費	300,000	317,734	17,734	総会・剣祭
基金入金	100,000	1,067,000	967,000	318件	会議費	100,000	177,800	77,800	役員会・理事会・当番幹事会・会報編集会議
剣祭収益金	60,000	32,200	-27,800		印刷費	300,000	309,243	9,243	会報・総会資料・会議用資料等
雑収入	0	2,500	2,500	書籍2冊	通信費	400,000	354,089	-45,911	会報・総会案内発送3969×82・会議通知等
					慶弔費	50,000	13,240	-36,760	記念品(会長退任)
					事務・雑費	20,000	21,320	1,320	USBメモリー・印刷用紙・インク・文具等
					予備費	30,000	163,506	133,506	株サラト名簿管理費等
小計	170,000	1,129,803	959,803		小計	1,200,000	1,356,932	156,932	
前年度繰越金	9,007,524	9,007,524	0		次年度繰越金	7,977,524	8,780,395	802,871	定期貯貯・通常貯貯・現金
総計	9,177,524	10,137,327	959,803		総計	9,177,524	10,137,327	959,803	

上記のとおり報告致します。平成28年3月31日
会長/長屋梅子 会計/瀧浪恵子・赤堀美里
監査の結果、相違なく適正と認めます。平成28年4月16日
会計監査/春田みね子・杉山祐子

平成28年度 予算

自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
総収入 8,860,395円 総支出 8,860,395円 残高 0円

収入の部					支出の部				
費目	28年度予算額	27年度予算額	増減	備考	費目	28年度予算額	27年度予算額	増減	備考
預金利息	10,000	10,000	0	定期貯貯・通常貯貯	事業費	200,000	300,000	-100,000	総会・剣祭
基金入金	50,000	100,000	-50,000		会議費	150,000	100,000	50,000	役員会・理事会・当番幹事会・会報編集会議
剣祭収益金	20,000	60,000	-40,000		印刷費	20,000	300,000	-280,000	会議用資料等
					通信費	40,000	400,000	-360,000	会議通知・連絡等
					慶弔費	50,000	50,000	0	弔電・香典・記念品等
					事務・雑費	20,000	20,000	0	OA用紙・インク・文具等
					予備費	30,000	30,000	0	
前年度繰越金	8,780,395	9,007,524	-227,129		平和大松印刷	220,000	220,000	0	会報・総会案内等
合計	8,860,395	9,177,524	-317,129		株サラト	500,000	500,000	0	総会案内発送業務・名簿管理費(54,000)
					次年度繰越金	7,630,395	7,977,524	-347,129	
					合計	8,860,395	9,177,524	-317,129	

繰越金内訳 (定期貯貯 8,166,820円) + (通常貯貯 582,095円) + (現金 31,480円) = (合計 8,780,395円) *他費目への流用を認める

熊本地震の復興支援

おおとり会の、復興・復興支援として左記の件を行いました。一、総会で熊本地震への募金を呼びかけ、会からの義援金と併せて十万円を日本赤十字静岡支社に寄託しました。



二十八年は日本各地で地震がありました。被災された皆様には、心より御見舞申上げますと共に、一日も早く復旧復興なされますよう御祈り致します。

カラフルな紙面は、会員の皆さまのご活躍を応援しています。是非、皆様からのお便りお寄せ下さい。
編集後記
編集委員 青木則子・石田加苗・井上明子
高橋節子・森 恵美